

株主のみなさまへ

# 第187期中間報告書

2024年1月1日－6月30日



Empowering Feeling  
**artience**

東洋インキSCホールディングス株式会社からartience株式会社へ2024年1月1日に商号変更しました。



## 株主のみなさまへ

代表取締役社長  
高島 悟

株主のみなさまにおかれましては、平素から格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第187期中間期の業績をご報告するにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間連結会計期間における世界経済は、個人消費の持ち直しには足踏みもみられるものの、全般には緩やかに回復が続いております。先行きについても、雇用・所得環境が改善するもとで、緩やかな回復が続くことが期待されますが、欧米における高い金利水準の継続に伴う影響や中国経済の先行き懸念などが景気を下押しするリスクがあるなど先行きは不透明な状況にあります。このような環境のなかでartienceグループは、年度方針である「高収益既存事業群への変革」、「戦略的重点事業群の創出」、「経営基盤の変革」の実現に取り組んでまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は増収となりました。うえ、営業利益および経常利益と親会社株主に帰属する中間純利益はそれぞれ増益になりました。

当社はartienceグループとして、すべてを変えるつもりで

企業変革に乗り出すなか、決して変えることがないのが「人間尊重の経営」というCorporate Philosophy（経営哲学）です。今まで当社が重視してきたサイエンス的な、論理的な価値に加えて、一人ひとり違う「個」の感性価値を活かした戦略モデルを磨いていきたい。そうした考えを反映したのが、Brand Promise「感性に響く価値を創りだし、心豊かな未来に挑む」です。「個」の感性価値を活かすためには、社員が自由にチャレンジできる環境を整える必要があり、そのように制度を作り変えてまいります。一方で、結果へのコミットを明確にしてまいります。各人の責任の所在を明らかにして目標を達成し、新たな価値を創造し続けられる企業となるべく舵取りをしてまいります。

2024年度よりスタートした新中期経営計画artience 2027は、変革への覚悟を形にしたものです。重点を置く事業領域を明確にし、経営資源を集中的に配分することで、ステークホルダーのみなさまの期待に応じてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも末永くご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

2024年9月

中期経営計画：artience 2027

2023  
12月期

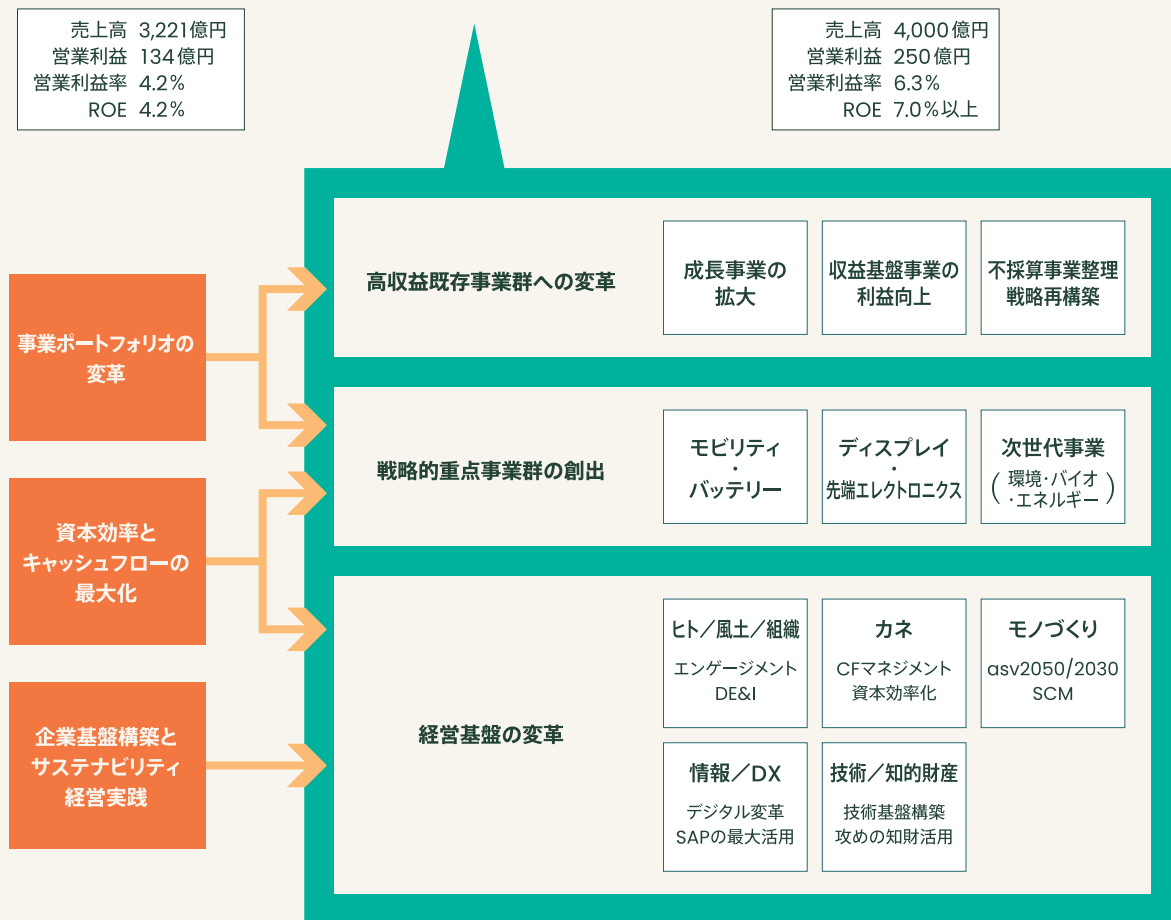
artience 2027

2026  
12月期

持続的成長

売上高 3,221億円  
営業利益 134億円  
営業利益率 4.2%  
ROE 4.2%

売上高 4,000億円  
営業利益 250億円  
営業利益率 6.3%  
ROE 7.0%以上



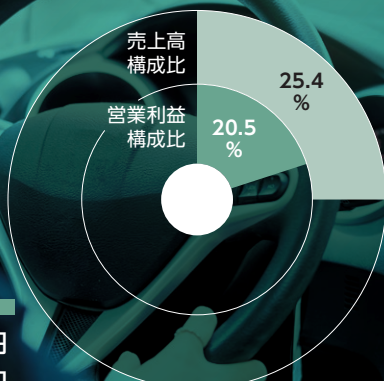
## 事業別活動報告

※各事業の売上高・営業利益の金額は、事業間の取引を控除していません。

※その他の事業については記載を省略しています。

※記載金額は億円未満を四捨五入しています。

### 色材・機能材関連事業



売上高：438億円

営業利益：22億円

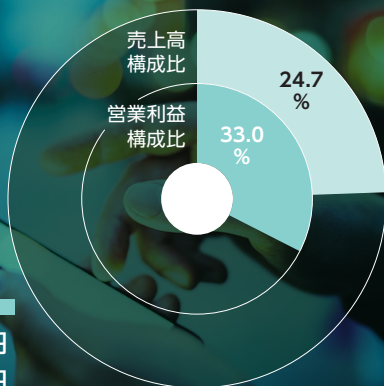
#### ▶当中間期までの概況

液晶ディスプレイカラーフィルター用材料は、中国や台湾での拡販が進んだことや、テレビ用の大型液晶パネルの稼働が高まり全体の出荷は増加しましたが、車載用や産業機器用などの中小型パネル向けは低迷が続きました。

プラスチック用着色剤は、海外で太陽電池用やエアコン用が好調に推移しましたが、国内では容器用や建材用が伸び悩みました。

インクジェットインキは、需要の増加に伴い国内外で販売が拡大しました。車載リチウムイオン電池材料は、EV市況の停滞により販売が減少しましたが、今後の出荷増に対応する生産の準備が進みました。

### ポリマー・塗加工関連事業



売上高：426億円

営業利益：35億円

#### ▶当中間期までの概況

塗工材料は、スマートフォンの生産増加に加えて中国での拡販効果もあり、導電性接着シート等の機能性フィルムが好調に推移しました。また、半導体関連材料の実績化も進みました。

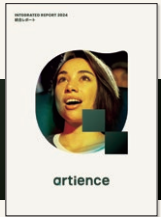
粘着剤は、国内ではディスプレイ用が復調した一方、ラベル用では低調が続き、原材料価格やコストの上昇もあり利益が圧迫されました。海外では、設備増強による拡販が進み好調に推移しました。接着剤は、包装用が国内で堅調でしたほか、東南アジアを中心に海外で販売が拡大し、工業用はリチウムイオン電池向けが顧客の稼働拡大に伴い好調でした。

缶用塗料は、国内では飲料缶用が堅調に推移し、海外では水産加工物向けの製缶需要の増加や環境調和型製品の採用拡大に加え、前期に実施したタイの塗料メーカー買収効果もあり、伸長しました。

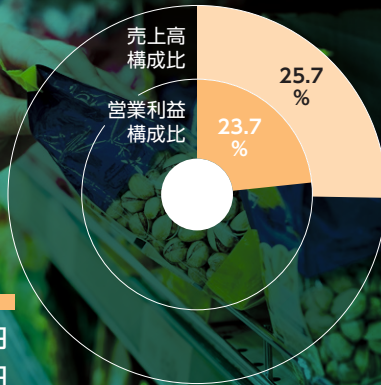


「統合レポート2024」ではartienceグループの価値創造ストーリーを各責任者の生の声でご説明することで、変革への意思をお伝えすることを目指しました。ぜひご覧ください。

◀◀ 詳しくはこちらからアクセスしてください



## パッケージ関連事業



売上高： 443 億円

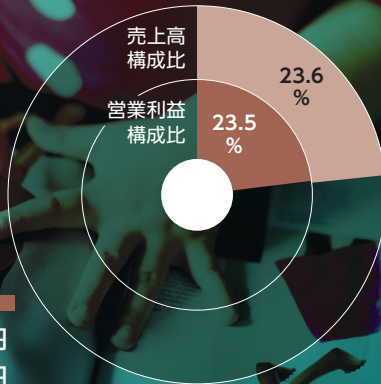
営業利益： 25 億円

### ▶当中間期までの概況

リキッドインキは、国内では、気候の温暖化傾向により冷菓や飲料向けが好調で、ペットフードやコンビニ向けも堅調に推移しました。段ボール用は、水産加工物の輸出減少や震災等により青果物の動きが鈍く低調でした。海外では、中国で消費の低迷により伸び悩みましたが、インドでの拡販が進み、東南アジアや米国等では需要が堅調でしたうえ、韓国で環境に配慮した水性インキの拡販が進みました。

グラビアのシリンダー製版事業は、包装用が買い控えによる商品数の減少もあり改版需要が低迷しましたが、エレクトロニクス関連の精密製版は緩やかに回復基調となりました。

## 印刷・情報関連事業



売上高： 407 億円

営業利益： 25 億円

### ▶当中間期までの概況

国内では、情報系印刷市場の構造的な縮小が継続し、チラシや広告、出版向けは低調に推移しましたが、事業構造の変革によるコストダウンや原材料値上りに対する価格の見直しにより、利益面での改善が進みました。また機能性インキは、紙器パッケージ向けで消費者の買い控えの影響を受けたものの、省エネルギー対応の高感度 UV インキが拡販により伸長しました。

海外では、中国で市況は低迷したものの教材向けの販売が拡大し、東南アジアでも紙器パッケージ向けが堅調でした。また、欧州や米国でも LED や省エネルギー対応の UV インキの販売が好調に推移しました。

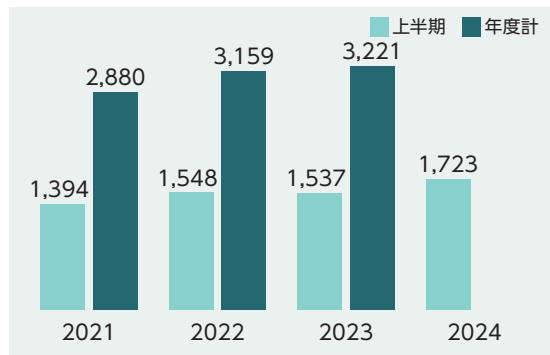
## 業績ハイライト

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年度の期首から適用しており、2022年度以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。  
 ※前連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2023年12月期上半期の各数値については、暫定的な会計処理の確定による見直しが反映された後の金額を記載しております。

※記載金額は億円未満を四捨五入しています。

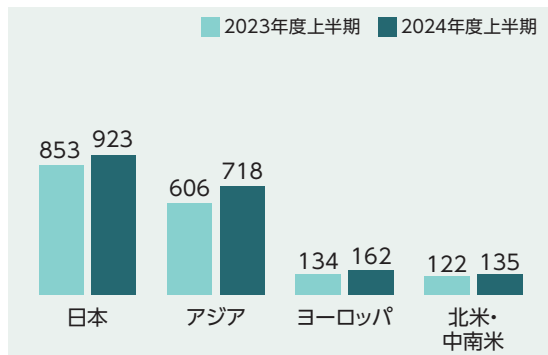
### 売上高推移

単位:億円



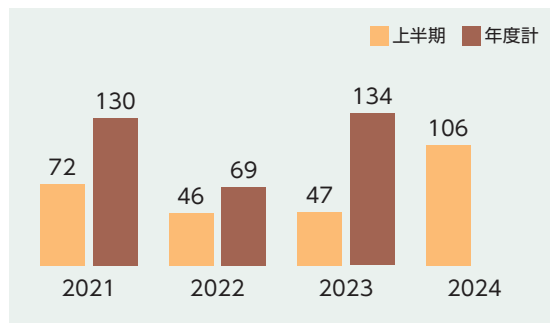
### 所在地別売上高

単位:億円



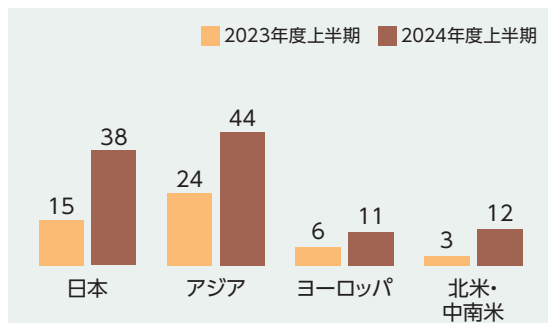
### 営業利益推移

単位:億円



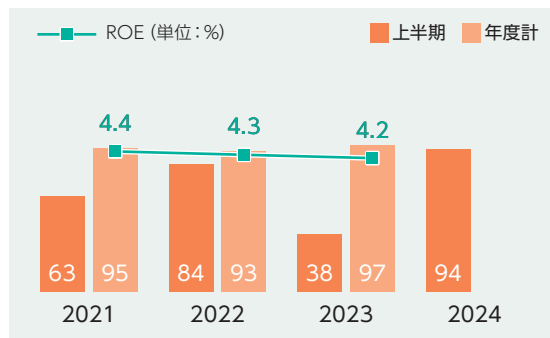
### 所在地別営業利益

単位:億円



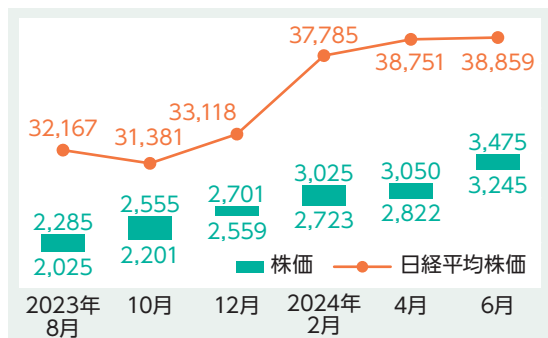
### 親会社株主に帰属する中間純利益推移・ROE

単位:億円



### 株価の推移(東京証券取引所)

単位:円



## 連結財務諸表の要旨

※記載金額は億円未満を四捨五入しています。

### 連結貸借対照表の要旨

(単位：億円)

科目	2023年12月31日現在	2024年6月30日現在
流動資産	2,309	2,468
固定資産	2,169	2,386
資産合計	4,478	4,854
流動負債	1,240	1,230
固定負債	682	804
負債合計	1,921	2,034
資本金	317	317
資本剰余金	325	325
利益剰余金	1,564	1,533
自己株式	△106	△5
その他の包括利益累計額	358	532
新株予約権	0	0
非支配株主持分	98	117
純資産合計	2,557	2,819
負債純資産合計	4,478	4,854

### 連結損益計算書の要旨

(単位：億円)

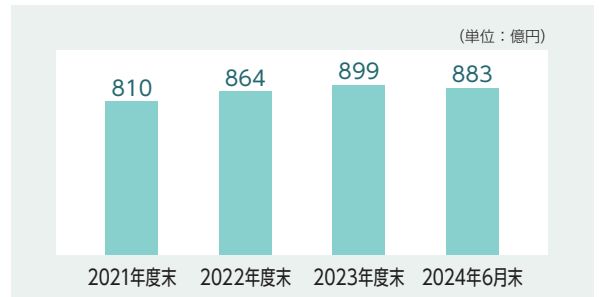
科目	2023年度上半期	2024年度上半期
売上高	1,537	1,723
売上原価	1,248	1,348
販売費・一般管理費	242	269
営業利益	47	106
営業外収益	20	37
営業外費用	14	19
経常利益	54	124
特別利益	10	0
特別損失	10	4
税金等調整前中間純利益	54	120
法人税・住民税及び事業税	21	31
法人税等調整額	△6	△5
非支配株主に帰属する中間純利益	△0	1
親会社株主に帰属する中間純利益	38	94

### 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

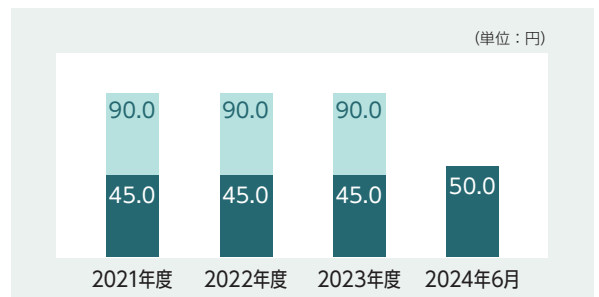
(単位：億円)

科目	2023年度上半期	2024年度上半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	56	151
投資活動によるキャッシュ・フロー	△94	△115
財務活動によるキャッシュ・フロー	△35	△29
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	25
現金及び現金同等物の増減額	△57	33
現金及び現金同等物の期首残高	534	560
現金及び現金同等物の中間期末残高	476	594

### 有利子負債の状況



### 1株当たり配当金



中間配当金：1株につき50円

中間配当の効力発生日(支払開始日)：2024年9月9日

## 株式のご案内

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月下旬
基準日	■ 定時株主総会・期末配当:毎年12月31日 ■ 中間配当:毎年6月30日
株主名簿管理人 および 特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間 9:00-17:00(土日休日を除く)

### ◆ 住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出について

株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

### ◆ 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

### 株主優待制度

毎年6月30日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式を1年以上かつ200株以上継続保有する株主さまを対象に、保有株式数と継続保有期間に応じた優待品を、当社オリジナルカタログから1点お選びいただき、贈呈いたします。毎年9月下旬に当社オリジナルカタログを発送させていただきます。

## artience 株式会社

〒104-8377 東京都中央区京橋二丁目2番1号

この冊子に関するお問い合わせ先 グループ総務部 TEL.03(3272)5731  
インターネットによるお問い合わせ先 <https://www.artiencegroup.com>  
E-mail [info@artiencegroup.com](mailto:info@artiencegroup.com)



この報告書は、当社グループのTOYO KING® NEX NVシリーズを使用して印刷しています。このインキは、バイオマス度40%以上で、石油系の揮発性有機化合物(VOC)を1%未満に抑えた環境にやさしいインキです。